



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

血圧

血圧とは、血液が血管壁を押す圧力のことです。心臓が拍動して、血液を送り出したとき（収縮期）の血圧を「収縮期血圧」（いわゆる上の血圧）といい、血液をためるために心臓が広がったとき（拡張期）の血圧を「拡張期血圧」（いわゆる下の血圧）といいます。拡張期には、心臓からは血液は送り出されていないのですが、心臓が収縮した時に心臓近くの大動脈が広がって血液をため、心臓の拡張期に元の大きさに戻ることで全身に血液を送っています。このため、加齢などにより血管の柔軟性が失われると、この大動脈の動きが少なくなるため、拡張期血圧は下がります。収縮期血圧と拡張期血圧との数値の差を「脈圧」といいますが、この脈圧の数値は血管の柔軟性がある程度表しているため、動脈硬化の目安になると考えられます。

血圧は、心臓から全身に血液を送り出す量（心拍出量）と血管の柔軟性（末梢血管抵抗）によって決まってくるため、心拍出量が増えるか、血管の柔軟性が失われて硬くなり、末梢血管抵抗が増えると血圧は上がり、腎臓の機能が低下したり、塩分のとりすぎなどで、体内のナトリウムが増え、身体は体液濃度を一定に保つとすることで、体液の量も増えます。これにより、血液の量も増えるため、心拍出量が増えます。そのほかにも、交感神経系の動きが活性化したり、アンジオテンシンⅡという物質が働くことで、心収縮力の増大と心拍数の増加で心拍出量が増加し、血管も収縮させることで末梢血管抵抗も増えて血圧が上がります。代表的な血圧を下げる薬（降圧薬）は、血管平滑筋にカルシウムイオンが流入することで血管が収縮するため、血管平滑筋にカルシウムイオンが流入するのを防ぐ「カルシウム拮抗薬」、アンジオテンシンⅡの血管への作

用を抑える「アンジオテンシンⅡ阻害薬」、アンジオテンシンⅡの産生を抑える「ACE阻害薬」、腎臓から塩分と水分を尿として排泄し体液量を減らして、心拍出量を下げる「利尿薬」、交感神経の心臓への作用を抑えて心収縮力を弱める「β遮断薬」、交感神経の血管への作用を抑えて、血管の収縮を抑える「α遮断薬」などがあり、各個人の年齢や体質、生活習慣などを考慮して、降圧薬は使い分けられています。1種類で十分効果が得られない場合は、いくつかの種類を組み合わせて使われることもあります。

血圧は高くても自覚症状はあまりありません。血圧が高い状態が続くと、血管や心臓に負担がかかり、脳卒中や心筋梗塞などのリスクが増えることが知られているので、定期的に血圧をチェックされることをお勧めします。

（北区）薬局エビノファーマシー

松本博志